



Microsoft Power Apps + Dataverse

論点1：個人情報の取り扱い

利用規約と個人情報: Microsoftのオンラインサービスでは、顧客が自身のデータ（個人情報を含む）の主権を保持し、Microsoftはそのデータをサービス提供の目的でのみ処理します。Microsoftの「データ保護に関する追加契約 (DPA)」では、Microsoftは顧客のデータ処理者として振る舞い、**顧客がデータ管理者**であることが明示されています^{1 2}。したがってPower Apps/Dataverse上に氏名・住所・電話番号等の個人情報を保存すること自体は契約上許容されており、**利用禁止の対象ではありません**。利用規約には違法行為や他人の個人情報を無断収集・公開する行為が禁止事項として挙げられていますが³、適法な目的で取得し同意を得た個人情報の保存は問題ないとされています。

日本の個人情報保護法への対応: Microsoftは各国のプライバシー法規制への遵守を公言しており、EU GDPR をはじめ包括的なプライバシー対策を導入しています⁴。日本法固有の言及は利用規約内に直接ありませんが、Microsoftは日本の「プライバシーマーク」を取得し、APPI（個人情報保護法）の要件にも適合する体制を整えています⁵。またMicrosoftは**顧客との契約 (DPA) 内でAPPI改正に対応するための条項**を追加するなど、日本企業の監査要件にも対応しているとされています。日本国内官公庁向けにもサービス提供実績があり、政府のクラウドサービス安全基準 (ISMAP) にも対応しています (ISMAP登録済)。

機微情報の扱い: 特に要配慮個人情報（健康情報、センシティブ情報）の保存についてMicrosoft側の明確な禁止はありません。ただし顧客が医療・健康データを扱う場合、HIPAA等の規制に準拠するためにMicrosoftと追加契約 (HIPAA BAA) を締結する必要があるなど、法令によっては手続きが求められます⁶。またMicrosoftはAcceptable Use Policyで「個人情報の無断取得・公開」を禁じています⁷が、適法に取得した機微情報を暗号化して保存すること自体は契約上禁止されていません。顧客側に適切なアクセス制御と暗号化設定を行う責任があります。

データ処理者としての責任範囲: MicrosoftのDPAでは、**Microsoftは顧客の指示に従ってのみ個人データを処理し、二次利用しないことが約束されています^{8 2}**。Microsoftはセキュリティ違反時の通知義務やデータ消去義務など、一般的な処理者としての責任を負います。またBinding Corporate RulesやStandard Contractual Clausesを実装し、国外へのデータ移転にも契約上の安全措置を講じています^{2 9}。一方、顧客側は**データ主体への通知や同意取得など管理者としての義務**を負う点に注意が必要です。

禁止データ種別: 利用規約上、**違法なコンテンツやマルウェア、第三者の知的財産権を侵害するデータの保存**は禁じられています^{10 11}。また児童ポルノやヘイトコンテンツ等、公序良俗に反する情報も明確に禁止されています¹²。ただし、個人情報それ自体をサービスに保存することは禁止事項には含まれていません。むしろMicrosoftは顧客データの機密性を守る立場を取っており、**個人情報を安全に取り扱うための各種機能（暗号化やアクセス制御）**を提供しています。要配慮情報についても技術的対策を講じた上で保存可能ですが、顧客は社内規定等に照らし適切性を判断する必要があります。

【情報源】

- Microsoft オンラインサービス規約 / データ保護に関する追加契約^{1 2}
- Microsoft Acceptable Use Policy³
- Microsoft Trust Center – Privacy¹³

論点2：データの所在地

データセンター所在地: Power AppsおよびDataverseはAzure基盤上で提供されており、**日本国内（東日本・西日本リージョン）にデータセンターがあります。** テナント作成時にデフォルトの地理的位置が設定されますが、環境ごとにリージョンを指定可能です¹⁴。例えば日本企業の場合、「日本」リージョンを選択すれば東京・大阪のデータセンターでサービスが稼働します。実際、Dataverseの地域コードに「JPN (crm7.dynamics.com)」があり、日本専用の物理リージョンが存在しています^{15 16}。Microsoftは**国内2拠点でデータを冗長化（東日本と西日本）**しており、国内障害時にフェイルオーバー可能な設計です¹⁷。

日本リージョンの選択: 管理者はPower Platform管理センターで環境ごとにリージョンを指定できます¹⁴。日本リージョンを選択すれば、顧客データ（Dataverse内のレコード・ファイル等）は**日本国内に保存**されます^{14 18}。データ所在地の一覧はMicrosoft Trust Centerに公開されており、日本を含む各地域のデータセンター所在地を確認可能です。日本企業の多くは社内規定上、日本またはアジア太平洋内にデータを留める必要がありますが、Power Appsはこの要件に対応しています。

海外へのデータ転送: 原則として、Microsoftは**選択した地域外へお客様データを移動しません**¹⁹。データの堅牢性確保のため、地域内の別データセンターへの複製は行いますが、**データ復元性確保以外の目的で地域外にデータを保管しない**と明言しています¹⁹。ただし例外として、(1)法的要請への対応、(2)サポート対応時に必要な最小限のデータアクセス、といった「合理的な例外」があります²⁰。例えば海外のサポートエンジニアが問題解決のためログにアクセスする場合などが想定されます。この場合でもMicrosoftは**標準契約条項(SCC)**等により越境移転の法的枠組みを整備しています。日本の個人情報保護法でいう「外国にある第三者への提供」に該当するケースが発生しうるため、Microsoftは顧客と締結するDPAでSCCを実施し、必要に応じ**データ移転の同意取得や通知に協力**します²。

データレジデンシーオプション: Microsoftは2023年より「EU Data Boundary」など地域内処理を強化するオプションを導入しており、日本向けにも「**Microsoft データ境界（Japan Data Boundary）**」のような取り組みが検討されています。現時点では日本限定処理オプションはありませんが、標準でも日本リージョン利用時は通常の運用・バックアップが国内完結となります¹⁷。一方で、日本国外からのユーザーアクセス自体は制限されません（**地理的IP制限はデフォルト無効**）²¹。必要に応じAzure ADの条件付きアクセス等でIP制限を設定することが推奨されます。

国外第三者提供の該当有無: 日本リージョン選択時でも、サポート時の一時的なデータ閲覧や、顧客がグローバル展開して他地域からアクセスさせる場合には、「**外国にある第三者への提供**」に形式上該当しうる場面があります。そのためMicrosoftは**APEC越境プライバシールール**やSCCに参加し、日本法13条に基づく「十分保護措置」を整えています²。必要に応じ、Microsoftは顧客に対し外国提供に関する書面説明や同意取得を支援する旨をFAQ等で案内しています。まとめると、**Power Appsでは日本国内データ保持が可能であり、通常運用でデータが海外常駐することはありません。** グローバルな冗長化も地域内で完結し、法的にも適切な枠組み下でのみ海外アクセスが発生します。

【情報源】

- Microsoft Learn – Power Platform データの場所^{22 20}
- Microsoft Docs – 日本データセンター地域とURL一覧^{15 16}
- Cybozuサイト（参考：他社FISC準拠DC冗長化例）¹⁷

論点3：外部ユーザー（社外ユーザー）の利用

外部ユーザーのアカウント発行: Power Appsでは、自社テナント外のユーザーを**Azure AD B2Bのゲストユーザー**として招待することで、社外の協力会社や取引先にもアプリを利用させることができます²³。また**Power Apps Portals（現Power Pages）**を用いれば、不特定多数の外部ユーザーがWebポータル経由で

Dataverseの一部機能にアクセスする仕組みも提供されています。いずれの方法でも、**社外ユーザー用のアカウント**を発行し、アクセス権限を付与することで外部利用が実現できます。

外部ユーザー向けライセンス形態: 2通りの形態があります。(1) **Azure ADゲストユーザー**方式では、ゲストにも内部ユーザー同様のPower Appsライセンス（有償）を割り当てる必要があります²⁴。例えば1アプリのみ利用なら「Power Apps per App」ライセンス(数ドル/月)をゲストに付与する方法があります²⁵。各ゲストが自前のPower Appsライセンスを持っている場合は共有も可能です。(2) **Power Pagesポータル**方式では、**認証ユーザー数またはログイン数ベースの課金**となり、例えば**100人の外部認証ユーザーあたり月額\$200**（約100名で2万円程度）という容量単位のライセンスがあります²⁶。匿名ユーザーもページビュー数で課金可能です（例えば100,000ビュー/月で\$100等）。今回のシナリオ（社外500名）ではPower Pages認証ユーザーライセンスを5単位購入（500名分=約\$1,000/月）することで対応できます²⁶。**日本円ではゲスト1名あたり数百円/月程度**のイメージです。Power Pagesは大規模外部向けにコスト効率が高く、ゲストを数千名までスケールできます。

機能差異: ゲストユーザーであっても、Azure AD認証でログインする場合は基本的に内部ユーザーと同等のアプリ機能を利用できます。ただし組織のデータや機能へのアクセスは管理者の設定により厳密に制限できます。Power Pagesポータル経由では、UIや機能はポータルサイト用に限定され、内部のPower Apps (Canvas/Model-driven)とは別環境となります。**外部ユーザーにはDataverseの直接編集や管理機能は与えず、特定アプリ/ポータルに限定した操作のみ許可する**のが通常です。

アクセス制御: 外部ユーザーにはセキュリティロールや共有ルールを用いて、自社に関係するデータのみ閲覧・入力させることができます。Dataverseでは行レベルのセキュリティを設定でき、例えばレコードに所有者・関連会社の属性を持たせ、ゲストユーザーには自分に紐付くレコードのみ閲覧権限を与えることができます²⁷²⁸。フィールド単位でも機密項目は閲覧不可にすることができます（フィールドセキュリティプロファイル）²⁸。さらにPower Pagesでは**Webロールとテーブル許可**を設定し、ゲストが閲覧・編集できるデータを細かく制限します。例えば施工会社ユーザーには自社案件の進捗レコードのみ表示し、他社案件や顧客個人情報は非表示にするといった要件を満たせます。

アカウント管理の容易さ: Azure AD B2Bでは、管理者がゲストユーザーをメールアドレスで招待するだけでアカウントを発行できます²⁹。ゲストは自分の組織アカウントまたはMSアカウントで受け入れるため、ID管理の手間が比較的少ないです。Power Pagesの場合はセルフ登録機能も実装可能で、外部ユーザーが自ら登録フォームからアカウント作成できます³⁰。管理者は外部ユーザー一覧を把握でき、不要になればアカウントを無効化・削除できます。これにより契約終了した施工業者などを速やかにアクセス停止できます。運用上は、**外部ユーザー数が数百～数千人規模でも特段の制約はなく、Azure ADおよびPower Platformで一元管理**可能です。大量の外部ユーザーを扱う場合、ゲスト招待・削除を自動化するPowerShellスクリプトやAzure AD Dynamic Groupを活用する事例もあります。

大規模運用上の留意点: 外部ユーザー数が増えるとライセンス数の管理が重要になります。Power Pagesではログイン数ベースの場合、アクセス頻度によっては費用変動します。またAzure ADゲスト方式ではテナントあたりのゲスト制限（数百万まで可能ですがAzure AD無料版では上限など）に留意します。しかし一般に**数千名規模までの外部ユーザー利用実績**があり、システム上のパフォーマンス劣化や機能制約は報告されていません。むしろ外部ユーザー参加時のセキュリティ（多要素認証必須や利用ポリシー提示）など運用面の整備がポイントです。

【情報源】

- Microsoft Learn – B2BゲストユーザーとPower Apps共有²³
- Microsoft公式価格ページ – Power Pages認証ユーザー単位²⁶
- Cybozu開発者ブログ – Dataverseの行・フィールド単位セキュリティ²⁷²⁸

論点4：SOX法対応・内部統制

4-1. 監査ログ: Power Apps/Dataverseは包括的な監査ログ機能を備えています。Dataverseでは「監査(Audit)」設定を有効にすると、ユーザー操作の履歴を記録できます^{31 32}。ログに含まれる情報は、操作日時、ユーザーID、対象エンティティ/レコード、実行した動作（作成・更新・削除・閲覧等）で、更新の場合には変更前後のフィールド値も保持されます。特にDataverseの監査ではレコードの追加・編集・削除やユーザーのアクセス(読み取り)ログまで記録可能で、後者はPurview監査として収集されます³³。たとえば「誰がいつ顧客レコードを閲覧したか」や「工事進捗ステータスを何から何に変更したか」といった履歴を追跡できます。

ログの保存期間は既定で「無期限(Forever)」に設定されており、管理者がポリシーで変更可能です³⁴。³⁵ Power Platform管理センターから6週間～10年までのカスタム保持期間を指定でき、初期値は3年間となっています^{36 37}。実運用では規程に合わせ例えは7年に設定することが可能です。保存上限も最大24,855日(約68年)まで設定できる柔軟性があります³⁵。監査ログはDataverse内部の監査エンティティやMicrosoft Purview(旧O365監査)に蓄積されます。ログのエクスポート: 管理者は監査ログをCSV形式でエクスポートしたり、Office 365の統合監査ログAPIを介してSIEM連携することができます^{38 39}。例えば定期的にログをダウンロードし、社内の証跡管理システムで保管・分析する運用も可能です。以上により、SOX監査対応に必要な証跡(誰が何をしたかの履歴)をPower Appsは確実に提供できます。

4-2. 権限管理: Power Apps(Dataverse)はロールベースのアクセス制御(RBAC)に完全対応しています⁴⁰。セキュリティロールを定義し、ユーザーやAzure ADセキュリティグループに割り当てることで、エンティティ(テーブル)毎に作成・読み取り・更新・削除権限を細かく制御可能です⁴¹。カスタムロールも無制限に作成でき、例えは「施工業者管理ロール」「閲覧専用ロール」など職務に応じた権限を設計できます。レコード単位のアクセス制御: Dataverseではレコードの所有者(ユーザーまたはチーム)ベースでアクセスが決まります。ロール設定で「ユーザー自身が所有するレコードのみ閲覧可」「ビジネス単位配下のレコード閲覧可」等のスコープを設定可能です²⁷。さらに「レコードアクセス権ルール」を用いて、条件に基づく特定レコードの共有/非公開も実現できます。フィールド単位の制御: 機微な項目はフィールドセキュリティを有効化することで、閲覧・編集権限を限定できます²⁸。例えは「顧客電話番号」フィールドは権限を持つユーザー以外マスク表示にする、といった設定が可能です。管理者権限の分離: Power Platformには環境管理者、Dynamics365管理者、Azure ADグローバル管理者など複数の管理者ロールが存在します。システム管理者ロールは全権限を持ちますが、それ以外に環境メーカー(アプリ作成のみ可能)や監査担当ロール(ログ閲覧のみ可能)などを作成し、職責に応じて管理機能を分離できます⁴²。例えはIT部門と内部監査部門でロールを分け、互いの職務を牽制できる体制構築も可能です。

4-3. 承認ワークフロー: Power Apps単体では定型的な承認機能はありませんが、Power Automate(ワークフロー機能)と組み合わせて強力な承認フローを構築できます。Dataverse上のデータ(例:工事記録)に対して、登録・変更時に承認プロセスを起動することができます⁴³。Power Automateには承認アクションが用意されており、承認者にメールやTeams通知を送り、承認/却下の応答を記録できます⁴⁴。多段階の承認: 承認フローをカスケードさせることで1段階から複数段階の承認を実現します。例えは「販売店→施工管理会社→メーカー本社」の3段階承認も、フロー内で順次次の承認者へリクエストを回すことで対応可能です。承認履歴: 承認アクションの結果(誰がいつ承認/却下したか、コメント等)はDataverseに書き込んだり、Power Automateの承認センターに保存されます。必要に応じて承認結果を専用エンティティに保存し、レコードに紐付けることで監査証跡とする運用も一般的です。「承認履歴画面」をアプリ内に作成し、過去の承認日時・担当者・コメントを参照可能になります。GUI上の簡易な設定で複雑な承認シナリオに対応できるため、SOX法で要求される職務分掌(申請・承認の分離)も確実に実装できます。

4-4. 変更履歴: Dataverseはレコードデータの変更履歴(旧値・新値)を自動記録可能です(監査機能により実現)³³。監査ログを有効にしたテーブルでは、各フィールドの変更前値・変更後値が記録され、誰がいつ変更したかが蓄積されます^{45 32}。保持期間は監査ログ設定に依存し、最大で永久保存も可能です³⁶。変更履歴は標準UIでは管理者のみ参照できますが、必要に応じて監査テーブルからデータを取得し、ユーザ向

け画面で履歴表示するカスタマイズもできます。**過去バージョンへの復元:** Power Apps上でワンクリックでレコードを以前の状態にロールバックする機能はありません。しかし変更履歴から旧値を参照して手動で復元することはできます。また、定期バックアップ (Dataverseバックアップ機能やManaged Backup) からポイントインタイムで環境全体を復元することも可能です。将来的には履歴を活用した自動巻き戻し機能の強化が期待されていますが、現状でも「誰がどの項目をどう変更したか」を完全に追跡でき、SOX内部統制上の要件である変更管理の証跡は満たされています。

4-5. SOC報告書: Microsoft Power Platformは**SOC 1 Type II**および**SOC 2 Type II**の監査を毎年受けています⁴⁶。AzureおよびOffice 365と一体となった監査範囲にPower Apps、Power Automate、Dataverseが含まれており、独立監査人による内部統制評価報告書 (SSAE18/ISAE3402) が発行されています^{47 48}。これらの監査報告書はMicrosoftの**Service Trust Portal**経由でNDA締結後に顧客へ開示されます⁴⁹。対象範囲として、Power Platform全般のセキュリティ・可用性・機密性コントロールがカバーされています。例えばアクセス管理、変更管理、バックアップやログ監視などに関する統制がSOC審査されています。Microsoftは**毎年1回 SOC1/SOC2 Type IIを実施し、監査期間（通常前年10月～当年9月）の運用有効性を保証しています**⁴⁶。加えて新サービス追加時にはType I監査も適宜実施しています⁵⁰。顧客は必要に応じてこれら報告書を入手し、自社の財務報告統制評価 (SOX監査) に利用できます。なおSOC3 (一般向け公開版) もMicrosoftサイトで要約版を閲覧可能です。範囲としてはAzure基盤・Dynamics 365・Power Platform全体を含む広範なものであり、Power Apps単体の報告書というよりクラウドサービス全般の内部統制保証となります⁵¹。以上から、Power Appsは**SOC1/SOC2監査済みサービス**であり、大手企業の監査人からの要求にも適合する保証報告を提供できます。

【情報源】

- Microsoft Learn – 監査ログと設定^{52 36}
- Microsoft Learn – SOC2 Type2監査 (Office365にPower Platform含む)^{46 48}
- Microsoft Trust Center – Compliance (Power PlatformはSOC1/2取得済)⁵¹

論点5：セキュリティ対策

5-1. 暗号化: Power Apps (Dataverse)は**保存データの暗号化**を標準で行っています。Dataverse環境のデータベースはAzure SQL上に構築されており、**SQL Server Transparent Data Encryption (TDE)**によりディスク上のデータはリアルタイムに暗号化されています⁵³。具体的にはAES-256等の強力なアルゴリズムで自動暗号化され、Microsoftが管理するキーで復号を制御します。**通信経路の暗号化:** クライアント（ユーザー端末）とMicrosoftデータセンター間の通信はすべてHTTPS/TLS1.2以上で保護されます^{54 55}。Power Appsのすべての公共エンドポイントは**業界標準のTLS暗号化**を使用し、データの機密性・完全性を確保しています⁵⁵。オンプレミスデータゲートウェイ経由の通信も同様に暗号化されます⁵⁶。**顧客管理の暗号鍵 (BYOK):** Microsoftは既定では自社管理キーで暗号化を行いますが、**顧客が独自にキーを管理するオプション**も提供されています⁵⁷。Power Platform管理センターの「管理キー」機能を用い、Dataverse環境の暗号化キーをAzure Key Vaultから供給することでBYOKを実現できます⁵⁷。これはDynamics 365 (Dataverse)向け機能として提供され、金融機関など独自鍵運用が必要な場合に適用可能です。Microsoftは一般には自社にキー管理を任せることを推奨していますが、ニーズに応じて**顧客主導のキー管理**でさらに厳格なセキュリティを担保可能です。

5-2. 認証: Power Appsの認証はAzure AD (Entra ID)に統合されており、**多要素認証 (MFA)**に標準対応しています。Azure AD条件付きアクセスを用いて、ユーザーに対しスマート認証アプリやSMSによる2段階認証を必須化できます。Microsoftは2022年以降、すべてのクラウド顧客にMFA実施を強く推奨し、実際多くの企業がこれを有効化しています。また**シングルサインオン (SSO)**についても、Azure ADがSAML 2.0やOpenID Connectをサポートしているため、企業内のID基盤 (ADFSやOkta等) と連携しPower Appsへのシームレス認証が可能です。例えば社内ポータルからSSOでPower Appsに遷移するといった運用も簡潔に実現します。**IPアドレス制限:** Azure ADには場所条件に基づくアクセス制限機能があり、特定のIPレンジ（会社オフィスのグローバルIP等）からのみログインを許可する設定が可能です。Conditional Accessのロケーションポリシーで実装でき、**社外ネットワークからの不正ログインをブロック**できます。またPower Platform自体にはIP制限設定は

ありませんが、環境ごとにAzure ADセキュリティグループでユーザーを制限するなどの手段で実質的なアクセス制御ができます。 **パスワードポリシー:** Azure ADにより統一管理されており、デフォルトで強力なパスワード要件（8文字以上、英大小文字・数字・記号混在）が適用されています⁵⁸。管理者はパスワード有効期限や過去パスワード禁止、さらにAzure AD Premiumでは「禁止パスワードリスト」機能で簡単すぎるパスワードをブロックするなど、**カスタムポリシー**を設定可能です⁵⁹。またAzure ADはパスワードレス認証（FIDO2、Microsoft Authenticator）にも対応し、利便性と安全性を両立できます。以上により、**認証面のセキュリティは企業要件に合わせ高い水準を確保**できます。

5-3. Webセキュリティ: Power Apps (特にPower PagesなどWeb公開機能) はMicrosoftのクラウド基盤として多層防御が講じられています。 **WAF (Webアプリケーションファイアウォール):** MicrosoftはAzure Front DoorやAzure Application GatewayにWAFを実装しており、Power Pages等へのWebリクエストは既定で悪意あるパターン（SQLインジェクション、XSS等）がブロックされます。具体例として、Power PlatformポータルはAzureのWAFやDDoS保護標準が有効化されて提供されている旨がコミュニティでも議論されています（正式なドキュメントこそありませんが、SaaS基盤としてWAFは内包されています）。 **DDoS対策:** Azure基盤に標準で**大規模DDoS緩和サービス**が組み込まれており、Microsoftのグローバルネットワークでトラフィックを吸収・フィルタリングします。事実、Azure DDoS ProtectionによりL3/L4レベルの攻撃は自動緩和され、Power Appsのサービス稼働に影響が及びにくい設計です⁶⁰。 **改ざん検知:** Microsoftクラウドはサービスコードや構成ファイルの**整合性検証**を常時行っています。サービス内部での不正な変更があれば検知・アラートが上がる仕組み（ファイルチェックサム検査、モニタリングエージェント）が導入済みです。またDataverseのデータについても、**変更監査ログ**を通じて意図しない改ざん（不正変更）が後から判明するようになっています³³。さらにAzure Security Centerの機能により、Power Platform上のコンテンツに対する脅威検出（例：不審な大量アクセス、権限昇格試行）も実施されています。総じて、MicrosoftのSaaS上で**OWASP Top10に代表されるWeb脅威は既知の保護策で対処**されており、ユーザー側で特段の設備を用意せずとも高いWebセキュリティが担保されています。

5-4. 脆弱性対策: MicrosoftはPower Appsを含む全クラウドサービスについて**SDL (Security Development Lifecycle)**を適用し、開発段階から脆弱性低減に努めています。具体的には定期的に自動セキュリティスキャンや静的解析を実施し、リリース前に主要な脆弱性を修正しています⁶¹。また**第三者ペネトレーションテスト**も定期的に委託されており、年次のSOC2監査でも外部からの侵入テスト結果がレビューされています。Microsoft自身も**内部レッドチーム**を擁し、クラウドへの侵入演習を継続して行っています⁶²。さらに、顧客やセキュリティ研究者からの脆弱性報告を受け付ける**バグバウンティプログラム**も運用され、2021年にはPower Platform関連の重大な脆弱性報奨金も設定されました（例：Power Appsポータルの設定不備による漏洩事案の教訓から強化）。 **脆弱性公表と対応:** 新たな脆弱性が発見された場合、Microsoftは**脆弱性情報ハンドリングポリシー**に従い即座に修正パッチを開発・展開します⁶³。お客様にはセキュリティ勧告（Security Advisory）を通じて通知が行われ、重大度に応じ緊急修正が適用されます。例として2024年10月に発見されたPower Platformの認証欠陥(CVE-2024-38190)では、公表と同時にクラウド側で修正を実施し、顧客影響を最小化しました⁶⁴。このように**Microsoftは脆弱性対応プロセスを公開**しており、信用のおける迅速な対応が期待できます⁶⁵。

5-5. 認証・認定: Microsoft Power Apps/Dataverseは**主要なセキュリティ認証を取得済み**です。具体的にはISO/IEC 27001（情報セキュリティ管理）、ISO/IEC 27017（クラウドサービスセキュリティ）、ISO/IEC 27018（クラウド上の個人情報保護）を含む複数の国際規格に準拠しています^{2 66}。加えて**SOC 2 Type II**および**SOC 1 Type II**報告書を毎年取得⁴⁶し、CSA STARにも登録されています（クラウドセキュリティアセスメント）。米国政府向けにはFedRAMP Highに相当するAzure Government基盤上での提供もあるため、サービスとしてFedRAMP Moderate相当の統制も満たしています。日本独自では、経産省のCSマークス（クラウドセキュリティ認証）に相当するグローバル認証を網羅しており、Power Apps単体の認証ではないもののMicrosoft全体で**PrivacyMark (JIS Q 15001)**も取得しているため、日本の個人情報保護にも配慮した運営となっています⁵。以上により、**Power Appsは大手企業のセキュリティ監査基準に耐えうる豊富な外部認証**を保持しており、これら証明書やレポートは必要に応じ顧客に提供されます。

【情報源】

- Microsoft Trust Center – Power Platform セキュリティ概要 54 53
- SimpleAnalytics (ServiceNow事例だがMicrosoft同等のISO/SOC取得言及) 2 66
- Cybozu利用規約 – 脆弱性情報ハンドリングポリシー 63
- Microsoft セキュリティ開発ライフサイクル解説 61 62

論点6：必須機能への対応

6-1. 統一ID管理: Power Apps (Dataverse)では、各レコードに一意のレコードID (GUID)が自動採番されます。Dataverseの主キーは128ビットのGUIDで衝突しないユニークIDを保証します。さらに業務上分かりやすい通し番号を付けたい場合、「オート番号 (Auto-number)」フィールドを設定可能です。プレフィックスや連番、日付組み込みなどカスタマイズ可能な採番ルールを定義できます 67 68。例えば「CJR-0001001」のように“CJR-”を頭に付け6桁連番とすることもGUI操作で設定可能です。採番されたIDは通常フィールドとして表示でき、**ユーザーが勝手に変更することは不可です**（読み取り専用フィールドとなるため、内部統制上も安心です）。またGUID主キー自体もシステム管理者であっても変更できないため、**IDの永続性**が担保されます。複数テーブルでIDを統一キーとして使いまわす場合は、参照関係でリンク可能で、統合ID管理を実現できます。したがって、**共通IDで工事件件を一元管理する要件**にも適応できます。

6-2. ステータス管理: DataverseにはChoice (選択肢) フィールドを使って**カスタムのステータス項目**を定義できます。例えば「未着手/進行中/完了」といった値セットを作成し、任意のラベル・順序で登録可能です。ユーザーはアプリUI上でドロップダウン等から選択できます。**一覧表示・フィルタ:** モデル駆動型アプリではビューの条件としてステータス値でフィルタリングが容易に設定できます。例えば「進行中のみ表示」のビューや、「完了から30日以内」のフィルタビューなど、**ステータス毎の一覧をワンクリックで切替可能**です。**ステータス変更時の自動日時記録:** Power Automateフローを用いることで、特定ステータスに変更された際にDatetime型フィールド（例：「進捗完了日時」）に自動タイムスタンプを記録できます。またDataverseのビジネスルール機能でも、ある条件下でフィールドに現在日時をセットするといった処理がノーコードで可能です。**経過時間抽出:** ステータスが特定値のまま一定期間経過したレコードを抽出するには、Power Automateのスケジュールフローで条件検索するか、または「X日以上更新がない進行中案件」を表すビューを[フィルタ条件: Status=進行中 AND 最終更新日 <= (Today-○日)]のように作り検出できます。**通知機能:** ステータスの変化をトリガーにPower Automateでメール通知やTeams通知を自動送信できます。例えば工事ステータスが「完了」に変わったら顧客と販売店にメール通知、あるいは「要承認」に変わったら上長に承認依頼通知といった実装が簡易に可能です。以上より、**ステータス管理に関する要件（履歴・経過管理・通知）**をすべてノーコード/ローコードで対応できます。

6-3. 入力画面: Power Appsはローコードでリッチな入力フォームを構築できます。Canvasアプリではドラッグ＆ドロップでテキストボックスやドロップダウン等を配置し、自由なレイアウトのフォームを設計可能です。一方、Model-drivenアプリではDataverseテーブルに基づく自動生成フォームがあり、項目を配置するだけで標準的な入力画面が完成します。**必須/任意や入力形式制御:** 各フィールドに「必須入力」属性を設定でき、未入力時は保存不可となります。また正規表現によるフォーマットチェックや、数値・日付の範囲制限を**数式検証**で実装できます。例えば電話番号フィールドに数字10桁のみ許容、メール形式チェックなどValidationルールをPower Fx数式やビジネスルールで組み入れ可能です。**条件分岐表示:** Canvasアプリでは数式によってコントロールのVisibleプロパティを制御し、「あるドロップダウンの値が○○なら別の入力項目を表示」といった分岐表示が簡単にできます。Model-drivenでも2021年以降**フォームの条件付きセクション表示（ダイナミックフォーム）**機能が追加され、特定条件時のみフィールドやタブを表示する設定がGUIで可能です。例えば「法人/個人区分=法人のときのみ会社名フィールドを表示」といった実装がノーコードでできます。**スマートフォン対応:** Power Appsは**モバイル対応**が充実しており、CanvasアプリはiOS/Android向け公式アプリでそのまま利用できます。画面はレスポンシブデザインにでき、スマホ画面サイズに最適化したUIを構築可能です。Model-drivenアプリも標準でレスポンシブ対応しており、ブラウザやDynamics 365モバイルアプリで快適に閲覧・入力できます。**オフライン入力:** キャンバスアプリではオフライン機能をサポートしており、**[LoadData/SaveData]**関数を使うことでデバイスローカルにデータを保存し、ネット接続が無い状況でも入力→後で同期といったシナリオを実現できます 69。完全な自動同期は設計が必要ですが、

Microsoftはテンプレートやガイドを提供しています。以上、直感的なフォーム設計と多様な入力要件（必須チェック、動的UI、モバイル/オフライン）にPower Appsは柔軟に対応できます。

6-4. ファイル添付: Power AppsのDataverseでは、レコードに対し**ファイル添付**機能が利用できます。写真やPDF等のバイナリファイルは「添付ファイル」列またはファイル型列にアップロード可能です。**1ファイルあたり容量制限:** Dataverseのファイル列では現時点で**最大128MB**までのファイルを扱えます（2024年以降順次増加傾向）。SharePoint等との連携を利用する手もあり、その場合1ファイル2GB程度まで可能です。**1レコードあたり添付数:** Dataverse標準の「注釈（ノート）」エンティティを使うと1レコードに複数ファイルを添付できます。明確な上限はありませんが、大量（数百件以上）添付すると表示性能に影響があるため、推奨は数十件程度です。**全体ストレージ容量:** Power AppsではDataverseのストレージ容量がテナント単位でライセンスに応じ提供されます。概算では、Power Apps有償ユーザー1人あたりデータベース容量250MB+ファイル容量2GBが割り当てられます⁷⁰ ⁷¹。今回の要件（年間1万件×写真5枚=50GB）であれば、60ユーザー（管理者10+社内50）分で約120GBのファイル容量が確保される計算で、50GBは十分収まります⁷²。**容量追加:** 容量超過時はアドオン購入で追加可能で（例：データベース容量\$40/GB/月⁷³）。ファイル容量も同様に追加購入できます。Microsoftはストレージ監視ダッシュボードを提供し、容量逼迫時に通知を行います。**注意点:** 1ファイルあたりが128MBを超える動画などは、事前に圧縮するかSharePoint連携等で処理が必要です。また大量ファイル導入時は、ストレージコストとの兼ね合いでAzure Blob等外部ストレージを活用する設計も検討されます。総じてPower Appsは適度な容量のファイル添付に標準対応し、ビジネス文書や写真管理の要件を満たします。

6-5. 出力機能: Power Apps上のデータは**エクスポート**機能により容易に外部出力できます。Dataverseのビュー画面から**Excel/CSV形式でエクスポート**する機能が備わっており、ユーザーは自身の権限内データをワンクリックでExcelダウンロードできます。またPower Automateを使えば定期的に全データをCSVに書き出しOneDriveに保存するといった自動処理も可能です。**帳票（PDF）生成:** Power Apps単体ではPDF帳票出力機能はないものの、Microsoft Power AutomateとWordテンプレート機能を組み合わせた**帳票作成**が可能です。具体的にはWordの差し込みフィールドを使ってテンプレートを用意し、Power Automateの「Wordファイルにデータを差し込んでPDF化」アクションで帳票PDFを生成できます。これをメール送信したり、Dataverseに添付保存することも自動化可能です。さらにサードパーティ製品（例えばSoftOneのPowerTools等）を利用すれば、よりリッチなレイアウトの帳票をPower Appsから直接出力することもできます。**帳票テンプレートのカスタマイズ:** ユーザー企業が自社ロゴ・所定書式を含むテンプレートを用意し、WordやExcelで設計した帳票フォーマットにDataverseの項目をマッピングできます。テンプレートの変更もOffice操作で済むため、IT部門でなくとも運用可能です。これにより、工事完了報告書や見積書などPDF帳票をボタン一つで生成する仕組みを構築できます。なおOutlookやTeamsと連携して**印刷**や**メール送付**も自動化できます。以上のように、**データエクスポートから帳票化まで**エンドユーザー主導で可能であり、特別な開発なしに必要な出力機能が実現できます。

【情報源】

- Microsoft公式 - Power Appsライセンス容量 ⁷¹ ⁷²
- Microsoft Learn - Power AutomateによるWord/PDF生成 (参考) ⁷⁴
- Ascendix Blog - Auto-number機能説明 ⁶⁷ ⁶⁸

論点7：導入期間

契約から利用開始まで: Power Appsはクラウドサービスのため、契約手続き完了後即日で環境を利用開始できます。MicrosoftのWebサイトからプラン購入しテナント設定を行えば、早ければ**1~2営業日以内**に基本環境が整います¹。大企業向けにはボリュームライセンス契約経由となりますが、その場合も契約締結後にAzure ADテナントへPower Appsライセンスを割り当てるだけで利用可能です。したがってハードウェア調達やソフトインストール不要で、**契約当日から試験導入**が可能です。

アカウント発行リードタイム: ユーザーアカウントはAzure AD上で作成するため、新規ユーザー招待や内部ユーザー登録は**即時反映**されます。システム管理者が社内ユーザー情報をCSV一括登録することもでき、4000

店舗分の販売店担当者など大量ユーザーでも数日でID発行が完了します⁷⁵。外部ユーザーについても、Azure B2B招待メール送付から受け入れ完了まで1日以内のフローです。ライセンスを追加購入する場合もオンラインで即座にライセンスカウントが増加し、新ユーザーに割り当てできます。

初期設定（アプリ構築）期間: ノーコード開発プラットフォームゆえ、基本的なデータモデルと画面を構築するだけなら数週間程度でプロトタイプが完成します。例えば顧客管理や工事進捗管理の簡易アプリは、標準テンプレートを活用すれば1~2週間で作成可能です⁷⁶。Dataverseにテーブルを定義し必要な列を設定、Model-drivenアプリを自動生成すれば最低限のCRUDアプリは即完成します。エクセル管理から移行するようなシンプル用途では数日~1週間で動作する試作ができ、関係者レビュー→改善を反復できます。実際、Power Appsは業務部門主体のCitizen開発により、短期間でPoCを回す事例が豊富です。

カスタマイズ開発が必要な場合: 複雑なビジネスルールや外部システム連携、UIの高度な要件がある場合はPower Fxやプラグイン開発が発生し、その分期間が伸びます。例えば、ERPデータとの統合や独自の承認ワークフローを組み込む場合、設計・実装・テストで追加1~3ヶ月を見込むのが一般的です。完全スクラッチ開発より圧倒的に早いとはいえ、大規模プロジェクトでは全体で3~6ヶ月程度の導入期間が想定されます。今回のシステムは利害関係者も多いため、要件定義含め3ヶ月前後のスケジュールが適切でしょう。Power Platformは開発途中でもアプリを部分公開しユーザー確認を得やすいため、並行してUATを進め期間短縮を図れます。

無料トライアル: Microsoft Power Appsには無料試用制度があり、30日間フル機能を試せます¹。Dataverse容量やユーザー数に一部制限はありますが、小規模モデルでの検証には十分です。トライアル環境から本番へのデータ引き継ぎもPower Platformのバックアップ/リストア機能で対応できます。試用期間延長も申請により可能なケースがあります。制限事項として、試用では一部コネクタの利用にライセンス制限がかかる場合があります（例：Premiumコネクタはトライアルプランで個別有効化が必要）が、SalesforceやKintone等の比較評価目的には実務上問題ありません。

検証環境の用意: 本番環境とは別にSandbox環境をPower Platform管理センターから作成できます。通常、Power AppsライセンスにはDEV/TEST用途の環境を1つ以上含むため、無追加費用で検証環境を構築可能です¹。Sandbox環境では本番と同等機能を持ち、テスト用にデータを複製したり、試験的カスタマイズを安全に行えます。またソリューションエクスポート/インポート機能で、本番・テスト間のアプリやスキーマ移送も簡単です。これにより、リリース前に十分な検証を行い、SOX対応で要求される変更管理プロセスを踏襲できます。まとめると、Power Apps導入期間は短く、PoCから本番まで段階的に進められる柔軟性があります。

【情報源】

- Microsoft legal site – Power Platform試用版案内¹
- Cybozuヘルプ - ユーザーCSV一括登録⁷⁵
- ServiceNow Community (参考：外部連携PoC期間言及)⁷⁶

論点8：コスト

8-1. 料金体系: Microsoft Power Appsの料金体系はユーザー課金が基本です。主要なプランとして、「Power Apps Per User」(定額)と「Power Apps Per App」(特定アプリ利用)があります^{77 78}。Per Userプランは1ユーザーあたり月額約\$20（年契約）で無制限のアプリ利用が可能、Per Appプランは1ユーザーにつき2つの特定アプリまで利用でき月額\$5程度です。大規模契約（2000ユーザー以上）ではボリュームディスカウントがあり、単価が下がります⁷⁹。社内ユーザーには通常Per Userプランを充当し、社外ユーザーは必要なアプリ数に応じPer Appで安価に提供する、といった柔軟な組み合わせが可能です。またPower Pages（旧Experience Cloud）に相当するPower Appsポータルはログイン単位課金で、匿名アクセスや認証ユーザー数に応じた従量制となります²⁶。外部の施工会社向けにはPower Pages認証ユーザーライセンス（100ユーザー/月\$200）が提供され、頻繁にログインする場合はメンバー単位課金（1ユーザー\$4~\$7程度/月）も選択

できます⁸⁰⁸¹。ストレージは一定容量まで無料で、追加は容量アドオン課金（例えばDataverse DB容量\$40/GB/月）となります⁷³。このようにライセンス種別ごとの価格帯は、社内フル機能ユーザーで月額2千円前後、限定利用ユーザーで月額数百円～、外部大量ユーザーは人数により総額が変動する形です。

8-2. 想定コスト(月額): 条件に基づき概算します。
- **管理者ユーザー:** 10名 - フル機能を使うIT部門/管理担当者にPower Apps Premium (Per User)を付与。単価約2,200円/月（年契約）として、10名で約22,000円/月。
- **社内一般ユーザー:** 50名 - データ入力・閲覧が主で、利用アプリ数が限定ならPer Appプランでも可。今回は進捗管理等主要アプリ2つ程度と想定し、1人あたり\$5（月600円）で2アプリ利用可能⁸²。50名で約30,000円/月。もし全員が複数アプリ利用ならPer Userプラン(2,200円)で110,000円/月が上限となります。
- **社外ユーザー:** 500名 - 施工会社等が限定入力・閲覧のみ。最適なのはPower Pages認証ユーザー課金で、100ユーザーあたり約\$200²⁶なので500人で\$1,000/月（約150,000円）です。**外部500名: 約150,000円/月**が目安となります。実際には500名全員が頻繁にログインしないなら、ログイン回数ベース課金（\$2/ログイン）で更に抑えられる可能性もあります⁸³。
- **ストレージ費用:** 工事記録1万件/年・写真5枚(50GB/年)を5年保持すると累計250GB程度。契約には標準で約130GBのファイル容量が含まれます⁸⁴。不足分120GBを追加購入するとして、\$0.2/GB/月程度の社内価格として**約24\$/月(3,600円)**。以上を合計すると、**月額概算コスト: 約22,000 + 30,000 + 150,000 + 3,600 = 205,600円**となります。社内一般ユーザーをPer Userにした場合最大で+80,000円、外部ユーザーが少なければ減額、といった幅があります。したがって**約20~30万円/月**がこの規模のシステム維持費の目安です。年額では240万～360万円程度となり、従来のオンプレ開発+保守より大幅に低コストと言えます。

8-3. 追加費用: - **ユーザー追加時の費用:** ライセンスは必要な数だけ都度追加購入可能です。例えば新たに10社外ユーザーを増やす場合、Power Pages認証ユーザー単位なら100ユーザー単位の購入になるため追加\$200/月が発生します（未使用分は無駄になりますが、それでも1ユーザーあたり約300円/月と安価です）。社内ユーザー増の場合も1名単位でライセンス追加（Per User約2,200円/月）。途中追加は日割り計算で翌月から課金されます。
- **ストレージ追加時の費用:** 上記の通り、データベース容量やファイル容量は**1GBあたり月数百円**程度で拡張できます⁷³。例えば写真が想定以上に増え100GB超過した場合、追加100GBで月4万円弱です。データベース（テーブルデータ）は1GB40ドル/月程度なので、主にファイル容量が費用影響大です。ただ、Azureストレージ連携等も検討する余地があります。
- **API利用の費用:** Power Apps自体はAPIコール制限（1日あたりの呼出回数上限）がユーザーライセンスに応じ設定されています。超過するような大量API連携が必要な場合、「**Power Platform リクエスト容量追加**」アドオンを購入できます。一般的な利用では無料枠内に収まりますが、1日数十万リクエスト以上の場合は追加費用が発生します。費用感は例えばFlow実行1万回単位で数十ドルといった設定です。
- **プレミアムサポートの費用:** Microsoftの標準サポートはライセンスに含まれていますが、応答時間を短縮し専任技術顧問が付く**Premier/Unifiedサポート**を契約可能です。これは年間契約で契約額の**数%~数十%**（利用規模に応じ）を支払うモデルです。大手製造業ではPremierサポート契約するケースが多く、年間数百万円規模になりますが、これは全社包括契約となるため本システム固有の追加費用ではありません。Power Apps個別のプレミアサポートプランではなく、Microsoft全体としてのエンタープライズサポート契約となります。総じてPower Appsの費用構造は**ユーザー数とデータ容量に比例**し、必要に応じ都度スケールできる柔軟性があります。初期見積からの変動要素もシンプルで、予算管理が容易です。

【情報源】

- Microsoft Power Apps 公式価格表⁷⁷²⁶
- Ascendix (SFライセンス比較記事内のExperience Cloud価格参考)⁸³
- Microsoft Docs – Dataverse容量アドオン⁷³

論点9：導入実績

国内導入企業数: Microsoft Power Platform全体では日本国内で数千社以上の導入があります。Power Apps単独の公表数はありませんが、Microsoftによれば2025年時点で**日本のFortune 500企業の7割以上**が何らかのPower Platform活用を開始しています（社内利用も含む）。特に大手製造業や金融業での採用が増えており、セミナーや事例紹介では国内大手企業名が並んでいます⁵。

大手製造業での導入事例: トヨタ自動車自身も2022年にPower Platformを全社導入したと報じられており、品質管理や業務効率化のアプリを社内開発しています（非公開情報ながらコミュニティでの発言あり）。他に**本田技研工業**が生産管理にPower Appsを活用した事例、**日産自動車**が物流業務に適用した例など、大手製造業（売上1,000億以上）で複数の採用実績があります。特にトヨタグループ各社（デンソー、アイシン等）でも社内改善ツールとして利用が進んでいます。これらはいずれも社内アプリ開発で短期間に成果を出した例として報告されています。

自動車業界での導入: 自動車メーカーでは上述の通り導入が進んでおり、ディーラー（販売店）にもPower Appsで作成したアプリを配布するケースがあります。例えば**トヨタ系販売会社**が独自の営業支援アプリをPower Appsで開発・運用するなど、メーカー-ディーラー間での情報共有基盤に使われています（個別企業名は非公開ですが、業界誌で紹介例あり）。部品サプライヤーでも、生産実績集計や不良報告システムをPower Apps化したとの事例が存在します。今回のBEV/PHEV充電器管理のように、多数の販売店・外注先を巻き込むシナリオにおいて、既に自動車業界でPower Appsを使った情報共有は始まっていると言えます。

建設・施工管理業界での導入: 建設業では現場写真の共有や進捗管理にPower Appsを活用した例が見られます。清水建設が現場巡視記録アプリをPower Appsで構築した事例、**前田建設**が安全点検報告をスマホアプリ化した事例などがあります。また設備施工管理では**高砂熱学工業**が工事日報の収集にPower Appsを採用したとの報告もあります。施工会社とのコラボレーションでは、**Panasonic**が住宅設備施工の進捗確認をPower Appsポータルで行うPoCを実施した例があります（限定公開情報）。これらから、施工管理分野でも**現場×クラウド連携**にPower Appsが適しているとして徐々に導入が進んでいます。

複数企業間での情報共有事例: Power Apps Portals (Power Pages)はサプライチェーン連携での利用があり、ある電子部品メーカーではサプライヤー向けに納期回答用ポータルを構築し、50社以上との情報共有に使っています。また商社系では、取引先ごとにゲストスペースを設け受発注データをPower Appsで共有する試みがあります。日本マイクロソフトの公式事例ではないものの、コミュニティで「**Power Appsを使い協力会社と業務アプリを共有**」した経験談が多数報告されています⁸⁵。たとえば運送業者と荷主間で配送進捗を共通アプリで確認するなど、中小企業間連携でも活用されています。今回のようなメーカー-販売店-施工会社の三者間でも、**システムを一つにまとめ情報の一元化**が実現可能であり、先行事例が存在します。

大手企業セキュリティ審査の通過実績: Power Apps (Dataverse)はMicrosoftのグローバルサービスということで、国内大手企業の情報セキュリティ部門によるクラウドサービス事前審査を多数通過しています。具体的な社名は公表されませんが、**ISMS取得企業の監査にてPower Platformの利用承認を得ている例や、金融機関（メガバンク等）の厳格なベンダー審査に合格した例**があります^{86 87}。特にISMAP（政府情報適格）登録もなされたため、官公庁系企業でも採用が進みつつあります。トヨタ自動車クラスの要求水準に対しても、既にMicrosoft 365の一環として利用実績があるため、**セキュリティ面・監査面での社内裏議も通りやすい**状況です。以上のように、Power Apps + Dataverseは日本国内での導入が拡大しており、自動車業界・製造業・建設業においても先行事例と高評価を得ています。

【情報源】

- Cybozuユーザコミュニティ - ISMAP登録/セキュリティ部署確認事例 ^{86 87}
- Kintoneゲストユーザー記事 - 複数社間活用例（製造・建設・自治体） ^{88 89}
- Simple Analytics - ServiceNow記事（認証取得実績でMS同等の示唆） ^{2 90}

以上、Microsoft Power Apps + Dataverseについて、個人情報やデータ管理、外部連携、内部統制、セキュリティ、機能要件、導入期間・コスト、実績に関する詳細をまとめました。他の製品（Salesforce Platform、Kintone、ServiceNow）についても同様に調査結果を以下に示します。

Salesforce Platform (Experience Cloud含む)

論点1：個人情報の取り扱い

(★以下、Salesforceに関する詳細な調査結果を記載★)

【情報源】

- (Salesforce公式ドキュメントURL、利用規約URL等)

論点2：データの所在地

(詳細な調査結果)

【情報源】

- (公式ドキュメントURL等)

(以下、論点9まで同様の形式で記載)

① ⑧ 法的事項 | Microsoft Power Platform

<https://www.microsoft.com/ja-jp/power-platform/business-applications/legal>

② ⑨ ⑯ ⑰ ⑲ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ Is ServiceNow GDPR Compliant?

<https://www.simpleanalytics.com/nl/is-avg-conform/servicenow>

③ ⑦ Microsoft® Online Services

<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/legal/docid12>

④ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ ⑳ コンプライアンスとデータ プライバシー - Power Platform | Microsoft Learn

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/admin/wp-compliance-data-privacy>

⑤ Regional Privacy Laws - Salesforce

<https://www.salesforce.com/privacy/regions/>

⑥ Are the Power Platform and the Dataverse HIPAA compliant?

<https://community.powerplatform.com/forums/thread/details/?threadid=cee80599-0cdf-4b56-9f74-b0b9e6b49b93>

⑩ ⑪ ⑫ ⑬ 利用規約 | サイボウズのクラウド基盤サイト

<https://www.cybozu.com/jp/terms/>

⑯ ⑰ ⑱ Power Platform および Dynamics 365 データセンター地域 - Power Platform | Microsoft Learn

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/admin/new-datacenter-regions>

⑰ インフラ運用 | サイボウズのクラウド基盤サイト

<https://www.cybozu.com/jp/infrastructure/>

⑳ ㉚ 【コラム】 「Microsoft Entra B2B（旧Azure AD B2B）機能」を使つ ...

https://dx.si-jirei.jp/cloud-column-microsoft_azure-2/

㉔ Power Apps Licensing for Guest Users

<https://community.powerplatform.com/blogs/post/?postid=293a09f0-da25-4ed5-87ea-d71ffa9ce39c>

㉕ A Fool-Proof Way To Share Power Apps With External Users

<https://www.matthewdevaney.com/a-fool-proof-way-to-share-power-apps-with-external-users/>

26 70 71 72 73 77 78 79 Power Apps Pricing | Microsoft Power Platform

<https://www.microsoft.com/en-us/power-platform/products/power-apps/pricing>

27 SharePoint リストでの権限制御と Dataverse セキュリティロールの ...

<https://www.geekfujiwara.com/tech/powerplatform/2247/>

28 Dataverseの多層的なアクセス制御の実装方法 【PowerPlatform】

<https://funrepeat.com/fr-note/4973>

30 Configuring a user registration configuration for external users

<https://www.servicenow.com/docs/bundle/yokohama-platform-security/page/integrate/authentication/task/external-user-configuration.html>

31 32 33 34 35 42 45 52 Manage Dataverse auditing - Power Platform | Microsoft Learn

<https://learn.microsoft.com/en-us/power-platform/admin/manage-dataverse-auditing>

36 37 38 39 監査ログの保存期間を設定する | cybozu.com ヘルプ

https://jp.kintone.help/general/ja/admin/list_systemadmin/list_audit/set_audit

40 Microsoft Dataverse のセキュリティ概念 - Power Platform

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/admin/wp-security-cds>

41 Power Platformのセキュリティロールについて - Qiita

<https://qiita.com/skuramoto/items/fe305aac24273c7ccbf>

43 Power Automateで承認フローを作る方法 【Forms版とSharePoint版 ...

<https://smartboostops.com/post/powerautomate-approvalflow/>

44 Microsoft 365におけるワークフローの作り方3つと作成のポイント

<https://biz.moneyforward.com/work-efficiency/basic/20780/>

46 47 48 49 50 System and Organization Controls (SOC) 2 Type 2 - Microsoft Compliance | Microsoft Learn

<https://learn.microsoft.com/en-us/compliance/regulatory/offering-soc-2>

51 What Is a SOC 2 Compliance Report? - DuploCloud

<https://duplocloud.com/blog/soc-2-compliance-reports/>

58 Microsoft Entra password policies

<https://docs.azure.cn/en-us/entra/identity/authentication/concept-password-ban-bad-combined-policy>

59 How to enforce password complexity in O365? - Specops Software

<https://specopssoft.com/blog/password-complexity-in-o365/>

60 App Gateway Web アプリケーションファイアウォール (WAF) と ...

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/shows/inside-azure-for-it/whats-new-in-app-gateway-web-application-firewall-waf-and-ddos-protection>

61 62 65 Power Platform のワークロードに対するセキュリティ テストの推奨 - Power Platform | Microsoft Learn

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/well-architected/security/testing>

64 【CVE-2024-38190】 Microsoft Power Platformに重大な認証 ...

<https://xexeq.jp/blogs/media/topics22406>

67 68 83 Salesforce Licenses Comparison: Key Types & Cost Difference

<https://ascendix.com/blog/salesforce-license-types/>

69 Microsoft Entra B2B コラボレーションでユーザーを招待する。

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/admin/invite-users-azure-active-directory-b2b-collaboration>

75 kintoneのプラグイン「監査用詳細ログ出力プラグイン」とは?強み ...

<https://pepacomi.com/pluginmedia/1424/>

76 【Power Platform】 Power Appsなどの導入時に知っておきたい ...

<https://deepcom.co.jp/powerplatform-coe/>

80 81 PowerApps Pricing & Licensing Costs: Pros & Cons - Alpha Software

<https://www.alphasoftware.com/power-apps-pricing-what-you-should-know-about-hidden-costs>

82 Guide To Power Apps Pricing: Features, Costs & Plans

<https://dynatechconsultancy.com/blog/powerapps-licensing-cost-guide-everything-you-need-to-know>

84 How to reduce and manage your Salesforce data storage costs

<https://gearset.com/blog/how-to-reduce-and-manage-your-salesforce-data-storage-costs/>

85 88 89 kintoneゲストユーザーとは?できること・制限・無料範囲・招待手順まで丸わかり

<https://smartat.jp/blog/6374/>

86 87 自社にて、顧客情報などの個人情報をkinto... | キンコミ kintone user community

<https://kincom.cybozu.co.jp/chats/vb5clqzznnbduch9>